

審査結果報告書

平成 28 年 9 月 6 日

主 査 氏 名 佐藤 雄一 

副 査 氏 名 美利 靖 

副 査 氏 名 高相 晶士 

副 査 氏 名 三枝 信 

1. 申請者氏名 : 田岡 佳憲

2. 論文テーマ : Protein expression profile related to cisplatin resistance in bladder cancer cell lines detected by two-dimensional gel electrophoresis
(シスプラチン耐性膀胱癌細胞株における高発現タンパク質の詳細: 2次元電気泳動による検索)

3. 論文審査結果 : **合格**

現在、浸潤性膀胱癌患者の治療には、患者の治療効果予測は行われずに、GC療法やM-VAC療法などシスプラチンを含んだ多剤併用療法が確立されたレジメンとして用いられている。この治療法の奏効率は比較的高いとは言え、効果のない患者も多数見られ、そのような患者ではプラチナ製剤以外の他の抗癌剤や免疫療法など新しい治療法への変更も可能なことから、治療効果予測マーカー検索の必要性が膀胱癌に限らず様々な癌で提案されてきている。申請者は、このような状況から膀胱癌におけるシスプラチン感受性予測マーカーを見出すべく、浸潤性膀胱癌におけるシスプラチン治療効果に影響を与えるタンパク質の網羅的検討を、シスプラチン耐性にした膀胱癌細胞株とその感受性親株から抽出したタンパク質を用い、二次元電気泳動法で詳細に比較検討している。その結果、発現量が大きく変動する幾つかのタンパク質を同定しており、さらにそれらのタンパク質の発現を、特異的抗体を用いて確認している。また、見出されたタンパク質の抗癌剤感受性との関連性や機能的考察も行っている。実際に同定されたタンパク質がシスプラチンの感受性に関連するのか、膀胱癌に特異的なのかの検討を今後行う必要性はあるが、癌のステージにより決められたレジメンを見直す可能性を秘めた研究であり、重要なテーマの一端に光を当てた重要な報告である。発表後の質疑応答ではシスプラチン耐性株の作製法について、変化のあるタンパク質の中で、幾つかに絞った理由、腫瘍マーカーの方へ持て行く研究かなど、基礎的内容から臨床的内容まで多岐にわたる質問があったが、真摯にそして適切に回答していた。

以上、博士論文として十分に価値のある研究であると判断した。